

「日々の理科」(第 2362 号) 2020, 12, 30

「晩秋の高尾山自然観察行(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

高尾山ケーブルカーは、全線をわずか5分ほどで登りきる。上りも下りも同じ所要時間だ。一見下りのほうが速そうな気がする。しかし車両は2両しかなく、その両方が1本のケーブルで繋がっているの、同じ速度、同じ所要時間で走るしかないのだ。



山麓の「清滝駅」の標高は210m、山頂の「高尾山駅」の標高は470mだ。高尾山の山頂標高は599mなので、標高差で考えれば、全行程の3分の2はケーブルカーで登ってしまう計算だ。これが今回「超軟弱山行」と自称する所以というわけだ。この区間を歩くと50分前後かかるので、忙しい日程では時間節約にもなるし、何よりも体力を温存できるので、誠に有難い存在だ。

高尾山のケーブルカーは、正式名称を「高尾登山鉄道」という。切符の購入は、自動券売機もあるが、昔ながらの窓口販売も残っている。しかも改札では、これまた珍しい「パンチ(入鉄)」を入れてくれる。自動改札に慣れきってしまった者には、とてもなつかしい。私が子どもの頃は、池袋や新宿など大きな駅では、改札口に駅員さんがズラリと並び、ラッシュ時には駅員さんの足元に、パンチ屑が山のように積もっていた。

下車すると「使用済みキップ回収箱」という「賽銭箱」のようなものが置いてある。しかしこんな珍しい切符は持ち帰りたいと思った。駅員さんに聞くと「どうぞ記念にお持ちください」という嬉しいことば。しかし同行の露木先生は、事もなげに回収箱に切符を投げ込んでいた。何ともったいないことを！



私はもらった切符を、帰宅後にキーホルダーにした。とても良い記念品になったと思う。



山頂駅前からは北側の眺望が良い。眼下に見える構造物は中央道と圏央道が交わる「八王子ジャンクション」だ。建設当時は反対運動が起きたが、このジャンクションと圏央道の高尾山トンネルの完成で、高尾山への車でのアクセスは飛躍的に楽になった。(私も今回利用した) 土日に駐車場難になる原因は、この道路の完成と、「ミシュラン」で紹介されたことが大きい。



今回は動植物の観察が主目的で、紅葉はあまり期待していなかった。しかしそれは「期待はずれ」いや、「期待当たり」だった。以外にもモミジ類は美しく、まさに見頃だった。絵も何枚か描くことができた。